

平成29年度香川県水産審議会 議事録

- 1 日 時 平成30年3月23日(金) 13:30~15:00
- 2 場 所 県庁本館12階 大会議室
- 3 出席者 嶋野委員、高野委員、大平委員、山本(浩)委員、森高委員、多田委員、持田委員、
山本(久)委員、山本(啓)委員、松本委員、青井委員
委員15名中11名が出席しており、条例第7条第2項の規定により、本審議会が成立。

4 議題

条例第7条第3項の規定により、会長である嶋野委員が議長となり議事を進行。

(1) 報告事項

① 香川県水産業基本計画の進捗状況について

事務局より、資料に基づき香川県水産業基本計画の進捗状況について説明があった。

② 専門部会の開催結果について

イ) 高野委員より、栽培・養殖・流通部会の概要について報告。

副部長について、小濱委員が選任された。「平成29年度種苗生産結果及び平成30年度種苗生産等計画(案)」、「平成30年度魚類養殖にかかる対応策(案)」及び「平成29年度藻類養殖事業結果及び平成30年度藻類養殖事業計画(案)」について、原案のとおり承認された。また、委員から、オリーブハマチのブランド維持方策に関する要望やノリを食害するチヌの駆除方法について意見が出された。

ロ) 松本委員より、漁港・漁場整備部会の概要について報告。

副部長について、青井委員が選任された。「平成30年度漁港整備事業の計画(案)」、「平成30年度漁場整備事業の計画(案)」及び「香川県海域における藻場ビジョン(案)」について、原案のとおり承認された。

ハ) 大平委員より、担い手対策部会の概要について報告。

副部長について、西谷委員が選任された。「平成30年度漁業の担い手確保・育成関係事業の実施計画(案)」について、原案のとおり承認された。また、香川県漁業士の認定について、指導漁業士候補者4名は全員適格であると決定された。

担い手対策部会に関連して、委員より、所属する漁協で国の担い手対策事業を活用しているが、国費の支出時期が遅いため担い手の育成に支障が出ているとの意見があった。これに対し事務局より、前金払や精算払ができるよう、制度改正を国へ要望中であると返答があった。

③ 平成30年度水産関係予算について

事務局より、平成30年度水産関係予算について説明。委員からは特段の意見等なし。

(2) 審議事項

香川県漁業士の認定について、指導漁業士の候補者4名に関する身上調査及び意見書に基づき事務局より説明。候補者全員を適格者として答申することとなった。

(3) その他

- 委員：オリーブハマチは10周年を迎え、香川県かん水養殖漁業協同組合としては餌の配合を見直すなど原点に立ち返ってブランド維持を図るつもりであり、県の協力をお願いする。ノリを食害するチヌについては、消費者に食べてもらうことが駆除に繋がる。
- 事務局：オリーブハマチについては香川県かん水養殖漁業協同組合等と協力しつつ、より良い物を作っていきたい。チヌについては昨年度のファストフィッシュ商品コンテストのテーマをタイ類とするなど、引き続き消費拡大方策を考えていきたい。
- 委員：近年チヌの漁獲は少ないが、マダイが増えたこともあって価格は上がっていない。ノリを食害する害魚と考えたら積極的に漁獲した方が良い。
- 事務局：昨年チヌの釣獲調査をしたが獲れなかった。時期を検討するなど引き続き取り組みたい。また、ノリ網を困う食害対策試験も行う。
- 委員：志度湾ではノリ網を少し沈めることでチヌの食害が減ったことがある。ただしボラも多い。チヌもボラも加工して売り出してはどうかと思うが、香川県は6次産業化が進んでおらず、力を入れて欲しい。
- 委員：徳島県の海の駅ではチヌが良く売られている。また広島県では、手術後の身体にチヌが効くと言われ好まれている。農業に比べて漁業は販売意欲が低いと感じており、PRが足りないのではないか。
- 事務局：魚ごとにストーリーを付けた販売は有効だと考える。鮮魚は売れ残りの問題があつて産直市場等では広まっていないが、県内で水産加工品を多く置いている道の駅もあり、検討していきたい。
- 委員：鮮魚店に行くと、魚は骨を抜かないと売れないという声を聞く。消費者側の問題もある。PRをしても店頭になくしては買えないため、いつでも置ける魚を売り出すことが必要では。
- 事務局：骨が異物扱いされるなど、消費者も厳しくなっている。調理にはコストも掛かっており、消費者の意識改革は必要だろう。
- 委員：かつては鮮魚店に行けば魚の旬や調理方法を教えてくれたが、現在は料理法を教わる機会がない。スーパーでも試食コーナーを設けるなど工夫して欲しい。
- 事務局：鮮魚店の減少は残念。全国的に対面販売型のスーパーが業績を伸ばしている事例もあるが、個別のスーパーでは対応が困難なものもあり、さぬき海の幸販売促進協議会と連携して販売促進に努めていきたい。
- 委員：食育教室は小学生くらいの親子を対象としていたが、経済的に見て若い頃から投資した方が効率が良く、離乳食を与える世代などの新たな連携先を探してはどうか。
- 事務局：小さい頃に食べた美味しさは忘れないとも言われており、御指摘は検討していきたい。
- 委員：人口が減少する中でこれから伸びる産業は観光業。外国人を含めた外来者に地元の魚を食べてもらうことが理想であり、県は大胆になってPRして欲しい。